



日本共産党
北茨城市委員会
磯原町豊田1030-2
毎週 日曜日 発行
市議団ニュース

ご相談は
お気軽に
市議会議員
福田 明
43-0468
市議会議員
鈴木やす子
42-2462

市長が「脱原発」を明確に

「脱原発をめざす首長会議」 に加わった豊田稔市長に聞く



道端のアヤメ園

関本第一小学校の筋向かい県道沿い

原発依存からぬけだし、エネルギー政策の転換を求め「脱原発をめざす首長会議」が4月28日に発足しました。参加した現・元の首長は72名。北茨城市の豊田稔市長も名を連ねています。その思いをうかがいました。

「福島原発事故は許さない。安全神話をふりまき、自分も信じてきた、そのことへの責任は取らなくてはいいない。」

現在、安全を担保しているにも国が十分な対応をしていないと考えている。当

然、原発は廃炉にしていくしかない。

ただし、その影響力の大きさを考えれば、すぐにゼロは無理と考えているのも今までどおり。それでも将来的にはなくすしかない、との考えで、名前を出した

面談で鈴木やす子議員は「即廃炉の決断ではないとの考えは今まじと変わっていないわけだが、一市長として脱原発の方向をしっかりと意思表示したという点で評価したい。今後もあること

いまだ震災前には戻らず

市内商工業者のきびしい現状

震災から1年2ヶ月。日本共産党市議団は北茨城市商工会で市内の業者の状況をうかがいました。

商工会によると、商業・観光ともに売上げは減少しています。民宿などは5月の連休中もきびしい状況で、特に子ども連れが少ないのが特徴です。飲食関係も震災前の状態には戻っていません。平潟の釣り舟なども魚の放射線量の基準値が1

とに声をあげてほしいし、北茨城市での再生エネルギーの開発に強くすすんでほしい」と述べました。

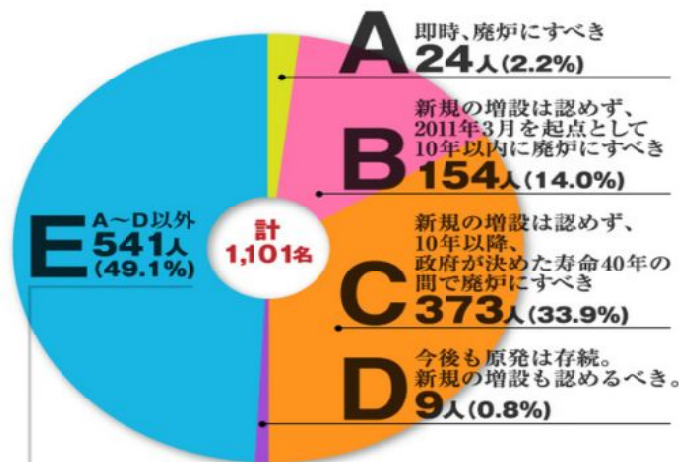
00ベクレルになってから、いっそう都会からの客足が遠のいています。

一方、売上げを伸ばしているのは建設業関係です。震災後、仕事量が急激に増えて忙しくなっています。

また、工業製品では金型関係が徐々に仕事量が戻りつつあるのは明るい材料です。全体的にはまだまだ厳しい状況ですが、業者が懸命にがんばって、少し前向きに



問 全国すべての原子力発電所について、今後、どのようにすべきだとお考えですか。



市販の雑誌「通販生活」のアンケートでは、北茨城市長は上記区分で「C」に。

第2回定例議会の予定

- 6月5日(火) 本会議(議案説明)
- 6月11日(月) 一般質問
- 6月12日(火) 一般質問
- 6月13日(水) 産業建設委員会
- 6月14日(木) 文教厚生委員会
- 6月15日(金) 総務委員会
- 6月19日(火) 本会議(採決など)

6月議会

市議会

東海第2原発の廃炉を 求める請願「不採択」

5月15日、那珂市議会の原子力安全対策特別委員会「東海第二原発の廃炉を求める請願」が審議されました。同市では、3つの常任委員会のほか、特別委員会の傍聴もできます。

今回の審議では、請願趣旨は理解するとの発言は多くありました。しかし、代替エネルギーのメドがないとか、雇用の問題があるとか、今すぐの廃炉はいいか、なものかといった議論のな

なりつつあるところです。事業再生資金の4分の3を補助する「中小企業クルーぷ補助金」の活用については、これまで第1次申請で34事業所、第2次申請で29事業所が採択され、約23億円の補助を受けました。第3次は70事業所で約10億円の申請をする予定です。

すべてが採択されるかどうかは微妙とのことですが、福田明議員は「震災から再起をはかろうとする意志のある業者については、申請をすべて採択し、補助金を出して支援すべき。国が申請額に見合った予算をきちんと確保するよう求めたい」と述べました。

か、結局「不採択」となりました。なお、同特別委員会は議員の半数で構成されており、共産党の議員は入っていません。今後、本会議での採決にゆだねられます。傍聴した鈴木やす子議員は次のように述べています。「立地自治体に近接する市の議員として強い関心をもって議論を聞いた。那珂市長は、国・県の基準や判断を待って、住民の意向を聞いてからと先延ばしの発言。議会は、請願趣旨に共感するも、あれこれ理由をつけて廃炉にはしたくないとの結論。事業者の意向が強く反映しているようで、住民の意志がとどいているのか、ひじょうに残念」